

saredo - されど -

1

奈良県大和高田市で、本来なら捨てられるはずの「落ちわた」だけで紡がれたリサイクルコットンを使い、糸や、靴下、帽子などを販売する saredo - されど - さん。ハッピーアースデイ大阪には、昨年度参加していただきました。

saredo - されど - さんは、昨年度から本格的な販売を始めたにも関わらず、ドイツ国際平和村に売上の3%を毎月寄付するというようなソーシャルな取り組みもされています。

洗練されたコンセプトや、思わず手に取りたいような商品たちを生み出す、萱澤有淳さん、そして妻の萱澤良子さん。saredo - されど - を立ち上げたお二人の商品に込められたこだわり、想いをご紹介します！

— saredo- されど - が誕生するまで —

戦後まもなく、お祖父さんの代から奈良で糸の販売をされている株式会社萱澤商店。

その萱澤商店の取締役営業部長である萱澤有淳（カヤザワ アリアツ）さんが saredo - されど - を構想し、良子さんとともに形にしたのが今の saredo - されど - です。

「saredo」という名前は、

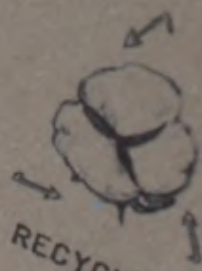
Sustainable：持続可能な（環境を破壊せずに、現状を維持したまま永久的に継続できる）、

Alternative：もう1つの選択、代わりとなる、異質な、型にはまらない、

REnovation：革新、刷新、修理。既存のものが完成当時に持っていた価値をリスペクトしながら新たな価値を創造し再生、再構築すること、

DOmestic：自国の、国産の、自前の＝DIY精神に則ったという、4つの英単語の頭文字をとって作られています。

この4つのことばをキーワードに、エコ素材でできた糸の提案や、その糸でできた製品の販売を行っています。



RECYCLED
COTTON
100

KINARI
きなり

—世界に繋がる「わたの和」rin - 輪 - cotton プロジェクト—



「わたの和」 rin-輪-cotton プロジェクト
wata no wa rin-cotton project
wata no war in cotton project

もともと、「ものづくり」への強い憧れがあったという有淳さん。生み出す商品へのこだわりは相当なものです。

作り出すものには全て、saredo - されど - さんが取り組む、「わたの和」rin - 輪 - cotton プロジェクトが柱としてあります。rin - 輪 - cottonとは、日本国内の紡績工場で紡績工程から発生したヴァージンコットンの落ちわた（未利用繊維）100%で紡績することに成功した自然と人にやさしいエコ素材で、「輪廻転生」、「資源循環の輪」をイメージさせる「輪（リン）」という言葉を組み合わせて名付けられました。rin - 輪 - cotton のラインナップは2つ。

◎RECYCLED COTTON 100(リサイクルドコットン 100)

独自の紡績方法で比較的毛足の長い落ちわただけで紡がれた糸を日本の染色工場で染めたエコリサイクル素材。

◎re-specked cotton(リ・スペクトコットン)

日本で紡績されたコットンの落ちわた 100%を再生し、デニムのような深い味わいを出すスペック染めという特別な染め方で染められたエコリサイクル素材。



この2つのrin - 輪 - cotton 糸や、糸を使った製品の売上の3%をドイツ国際平和村の活動のために寄付をするというのが、「わたの和」rin - 輪 - cotton プロジェクト。

「わたの和」の「わ」には、平和の「わ」、そしてJAPAN(和の国)の「わ」の二つの意味があり、日本から「rin - 輪 - cotton」を通じて世界の平「和」へと「輪」が繋がるように、という願いが込められているそうです。「ほほダジャレですけどね。」と、有淳さん。ダジャレでも、素敵すぎる取り組みです。

—くらしに寄り添うされどもの—

そんな saredo - されど - さんの「rin - 輪 - cotton」から作られる製品といえば靴下！

RECYCLED COTTON 100、re-specked cotton で編まれた、全部で 36 色あるという「Pelican(ペリカン)」や「Tortoise(トータス)」。

リサイクルコットンを生まれたての KINARI 色、もしくはベンガラ染の「古色的美」さんの染料でご自分でベンガラ染めしていただける、セミクルー丈の「Barnacle(バーナクル)」、「Radish(ラディッシュ)」。

リサイクルコットンとヘンプという素材をミックスして編まれたショート丈の「Barnacle(バーナクル)」。

リサイクルではありませんが、季節の sare 道具(されどもの)として秋冬向けにリリースされたむら染めコットンウールのバイカラーくつした「Puckster(パックスター)」の 5 種類が販売されています。

「Pelican(ペリカン)」のオリーブを筆者も持っていますが、とても丈夫で履き心地が良いです。

「一年を通して、季節問わず長く履いてもらいたい」という想いがあった」ということで、丈も長めに作られています。すぐに小指の部分が破れてしまったり、例えばアクリル素材だと、洗うたびにカチカチとした風合いになってしまう市販の靴下。しかし、saredo - されど - さんの靴下は、風合いも変わらず、荒い編み方に見えても破れないという特徴があります。

色の名前も、「シグナルレッド」、「L・グレー」、「コゲチャ」など、個性的な名前ばかりです。

使う人に「楽しんでもらいたい」という想いから、全て萱澤さんがオリジナルの名前を考えているとのこと。

たかが靴下ではなく、「されど」靴下という言葉が製品の端々に表れています。



—”糸”で繋ぐ、人の「わ」—

saredo - されど - さんの製品には、様々なイベントで触れることができます。

なかでも藤井寺市道明寺の境内で開催される「道明寺天満宮手づくり市」は、一番最初に出店された市で、特別な思い入れがあるそうです。

今回ご紹介した靴下以外にも、リサイクルコットンで編まれたニット帽や、良子さんが編まれた人気の「▲」のぼうしも販売されています。ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか？



「このようなイベントに参加すると、saredo - されど - の糸を通して人の繋がりが広がっていくことを感じる」と、萱澤さん夫妻は言います。

前のイベントで糸を買ってくださったお客様が、「こんなの編んでみたよ」といってまた来店してくれたり、他のつくり手さんとのコラボで saredo - されど - の糸や靴下が全く想像もつかない姿に変身したりする。

間口を限定しないことで色んな人が繋がって行って、それがすごく楽しい嬉しい、とのこと。

「まだまだ始めたばかりですが、これから先も自分たちが居なくなってもずっと、saredo - されど - が皆さんの心のどこかで居続けている、そんなブランドを目指して頑張りますので、応援よろしく願いいたします！」と、今後への意気込みも語っていただきました。

もちろん、応援させていただきます！！ saredo - されど - さん、本当にありがとうございました☆